



「私の心に響く言葉と風～聖霊降臨日にあたり～」

2025 年 5 月 25 日

にっぽんせいこうかい はちのへせい きょうかい
日本聖公会八戸聖ルカ教会

かんり ぼくし しきい ステパノ こしやま てつや
管理牧師 司祭 ステパノ 越山 哲也

桜の季節から新緑の季節へと移行する中で、教会暦は復活節から聖霊降臨日、聖霊降臨後の時を迎えようとしています。聖霊降臨の出来事は十字架の死から復活された主イエスと出会い、失意のどん底にあった弟子達の日常が回復し生きる力を与えました。弟子たちに降臨した聖霊の息吹は今もこれからも私たちに絶え間なく注がれていることを忘れないで生きて参りたいと思います。

「聖霊」はギリシャ語で「プネウマ」といいますが「風」という意味もあります。「風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない。」(ヨハネによる福音書3:8)と主イエスが語っておられるように聖霊は私たちの世界に絶えず吹いています。

暑い日に爽やかな風が吹くと私たちの身体に清涼感を与えられます。農作物も風によって生育します。しかし、風は時に台風となって大きな脅威となり甚大な被害をもたらします。ヨハネ福音書で語られているように風は私たちの思いをはるかに超えて自由自在に吹きすさぶのです。

先日、日頃から親しくさせて頂いている方から素敵な歌を教えて頂きました。「ココロの風」という曲です。この詩は、聴覚障がいでも耳が全く聞こえない星ゆきこさんの作品で、命の危険と隣り合わせの子を持ち、苦しんだお母さん達の声からできあがったそうです。言葉でも、手を差し伸べる事もできないと語る星さんの気持ちに、音で寄り添えるのではとの思いから作曲されたそうです。この曲は、今年4月26日に兵庫県丹波篠山市で開催された「第10回丹波篠山国際とっておきの音楽祭」で坂下忠弘さんによって歌われました。歌詞の一部を紹介します。

「ココロノ風」

作詞 星ゆきこ 曲 伊藤素直

風がわたしのココロをなでる

“そんながんばらなくていいよ”と

悲しい時は思いっきり泣いて風がその涙をぬぐうから
寂しいかな。。。いつの日からかホントに大切なものに気づかなくなってた

わたしはわたしのままで あなたはあなたのままで“いいんだよ”そう風がつぶやく

風がわたしのココロに吹いて“あなたはずっとそのままでいいよ”苦しい時は誰かに甘えて風がその肩抱きしめるから

主イエスは、私たちが自分らしく生きることが出来るように願っておられます。私は「ココロの風」を聴き、イエス様からのメッセージだと思いました。聖霊降臨日を迎える時に心に響く素敵な曲を教えて頂き感謝です。

風(聖霊)が「わたし」の心を支え、生きる力を与えてくださいますようにと祈り毎日を生きていきたいと思います。

*「ココロの風 とっておきの音楽祭」

でインターネット検索すると
YouTubeで坂下さんが編集してくださった動画を視聴
することが出来ます。

